

〔3番 小笠原美保子 登壇〕

○3番（小笠原美保子）

議長のお許しを得ましたので、早速ですが一般質問をいたします。初めに、耐震化の取り組みについてお尋ねをいたします。大規模な地震が起こるたびに、耐震化が進まない住宅が指摘されています。能登半島地震においても、古い木造住宅が多かったことが今回の甚大な被害の一番の原因だと言われています。国土交通省のホームページでは、「このような大地震から自らの生命・財産を守るためには、住宅や建築物の耐震化を図ることが必要であり、所有者一人ひとりが、自らの問題として意識して取り組んでいただくことが重要です。」と、所有者による耐震化を推進しています。今回、飛騨市議会定例会の6月補正予算で能登半島地震以降、住宅の耐震診断に係る相談が増加していることに加え診断後の耐震工事のニーズが高まることを想定して、必要と見込まれる所要額300万円が追加計上され、これにより耐震工事費の補助上限額が200万円へ引き上げられ、住宅の耐震化が進むことが期待されます。高齢者の多い過疎地ほど、耐震改修が進まないと専門家は指摘しており、飛騨市でも心配されますので、家族や財産を守るための取り組みをお尋ねいたします。

まず1つ目です。耐震化の現状と推進についてです。「飛騨市耐震改修促進計画」では、耐震化が進まない要因について「経済的負担」、「高齢者世帯のみの増加」、「家族構成の変化」、「防災意識の希薄」とあげられています。実際に能登半島地震の死者の多くは高齢者で、古い持ち家が揺れに耐えきれず倒壊して、下敷きになったことが原因だと言われています。市内でも、耐震化にはお金がかかる。後に住み続ける家族もいないといった理由で、耐震化まで考えられないという方もいらっしゃると思いますが、能登半島地震で珠洲市の場合、実際に補助金を利用した方が補強の効果で建物の被害はほとんどなかったと報告もされています。市民の皆様の防災に関する意識が高まっている今、対策を進めるいい機会になりますので、これからの取り組み、現状をお尋ねいたします。

2つ目は、家具の転倒防止・固定化の取り組みについてです。災害時の安全を考えると建物も大丈夫で備蓄の備えも十分であれば、在宅避難のほうが自宅で生活ができるためプライバシーが守られ、安心感もあります。特に避難所へ行くことが大変な高齢者は、慣れた生活環境で過ごせることで健康面もリスクが減るのではないのでしょうか。近年の地震では、建物の中でけがをした人の約半数は家具の転倒、落下が原因だと調査結果が出されており、ガラスの飛散によってけがを負った人を加えると4分の3になると発表されています。家具をしっかり留めてガラスの飛散防止をすることで身を守ることができるのです。ただ、たんすや冷蔵庫などの大きなものの固定化を、高齢者や自分では困難な方も多くて進まないのが現状ではないのでしょうか。実際に地域の方に家具の固定化をしているのかお尋ねをしたところ、自分ではできないしどうすればよいのか分からないとのことでした。いざというときに逃げ道を塞がれたりけがをしないためにも、家具の安全な対策を進めていただきたいと思います。市内の防災士と協力しながらできることも併せてお考えをお尋ねいたします。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

〔建築企画監 砂田健太郎 登壇〕

□建築企画監（砂田健太郎）

1点目の耐震化の現状と推進についてお答えします。

現在、木造住宅耐震化を推進する事業としては、木造住宅耐震診断と木造住宅耐震補強補助金の2つがあります。また、耐震化の仕組みや支援制度について、広報、ホームページ、同報無線などによる周知を行うほか、現行の耐震基準を満たさない古い住宅が密集している地域を普及啓発重点地区として戸別訪問を行っており、令和4年度にはポスティングを含む214件、令和5年度は152件の戸別訪問を行いました。その結果、無料耐震診断に令和4年度4件、令和5年度7件の申し込みをいただきましたが、診断結果から耐震補強工事の実績につながっていない状況です。しかしながら、本年1月1日に発生した能登半島地震を受け、市民からの相談や診断の問い合わせが例年よりも多く寄せられていることから、住宅の耐震に対する意識が高まっているものと受け止めております。市としても市民の意識が高いこの機を逃さずに耐震診断や補強工事へとつなげることができるよう、無料耐震診断の予定数を当初予算の15件から50件に増加し、耐震補強補助金の上限についても120万円から200万円に引き上げたところです。また、本年も無料耐震診断の啓発活動を7月に実施する予定としており、今年度はこれまで市職員のみで実施していた戸別訪問を、県の建築事務所と連携して実施することでさらなる啓発につなげたいと考えています。また、市で定住促進策として実施している住宅新築購入支援助成金制度を利用した申請者からの聞き取りにおいて、耐震化工事を行うよりも建て替えや新築を選択されたとのケースもあったことから、令和6年度から住宅新築購入支援助成金に、新規造成された分譲地に対する50万円の加算助成を拡充することとしました。さらに、耐震改修工事よりも安価で費用負担の少ない耐震シェルターについても、より助成制度を利用しやすくなるよう対象となるシェルターの種類を拡大する要綱改正を行ったところでございます。今後も、少しでも地震による人的被害を軽減するため、耐震化や建て替えに際して利用しやすい制度となるよう、引き続き取り組んでまいります。

〔建築企画監 砂田健太郎 着席〕

◎議長（井端浩二）

続いて答弁を求めます。

〔危機管理監 高見友康 登壇〕

□危機管理監（高見友康）

続きまして、家具の転倒防止・固定化の取り組みについてお答えします。

議員ご指摘のとおり、能登半島地震により改めて家具の転倒防止・固定化の重要性が認識されています。市では昨年9月、市防災士会、危機管理課の共催により家具転倒防止に関する意見交換会を専門家を招いて開催しました。専門家からは、特に高齢者世帯において家具固定の重要性についての関心、反応が薄く、周知・啓発要領が重要であることや、関係機関による組織・仕組みの構築が必要であることなど、解決すべき課題等をご教示いただきました。また、意見交換会では実証の必要性が討議され、市防災士会、建築組合連合会、民生委員児童委員等の連携により、河合町において高齢世帯3世帯に対し、家具の転倒防止、固定化の実証検証をしたところです。これらの成果を反映して、本年7月には関係機関による協議会を立ち上げ、来年度からの本格実施に向けた準備を始めることとしております。また、市防災士会総会では今年度の主要事業の1

つとして家具の転倒防止を重点施策として掲げています。対象世帯の選定、費用負担、家具の固定数の制限、市民への周知、希望世帯の把握要領等、課題は山積みではありますが、専門家や日本防災士機構など関係機関と緊密に連携し、飛騨市に見合った家具の転倒防止・固定化に取り組んでまいります。

〔危機管理監 高見友康 着席〕

○3番（小笠原美保子）

初めの補助金のところですけど、耐震化のところは私もネットで調べた程度でそんなに知識はありませんけど、シェルター、大体寝ているところを強化するとか、居間を強化するとか、部分的なものが割とお気軽に補助金の利用をしていただけるのかなと思って見てきました。そうすることで、多分値段的にもかなり抑えられて、対象件数も増えることにつながるのかなと思うんですけども、私何人かにお尋ねしたり、昔からの大工さんにもお聞きしたところ、皆さんリフォームをしなければならないと思っているんですよね。すごく大掛かりでなければならないとっていてシェルターというものをあまり御存じないのですが、その点は、気軽に利用していただけるようにどうやってこれからお知らせをしていただけるのか教えてください。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□建築企画監（砂田健太郎）

シェルターにつきまして、これまで補助の実績としてはまだない状況でございます。今年度から利用していただけるように、間口が広がるように対象製品が広がるような要綱改正を行ったところであります。先進事例として他県などでやっているところがございますので、そういったところではこういった製品が取り扱えますというような事例まで例示しているところもございますので、今後、当市のほうでもこれでしたら補助対象となりますというものを例示できるような形で考えていきたいなと思います。

○3番（小笠原美保子）

ぜひその辺はよろしく願いいたします。頭からうちは無理と置いていらっしゃる方がとても多いので、そういうことがあるというのが分かれば考えるきっかけにもなると思いますので、ぜひやっていただきたいなと思います。

1つ気になったのが、皆さん口をそろえて「そんなお金はない。」とおっしゃるんですが、その件に関しては、例えば利用をするときにご自分で一旦払ってから補助金をいただくのか、差額を払うのか、業者のほうへ直接市から払っていただけるのか、どういう仕組みになっているのか教えてください。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□建築企画監（砂田健太郎）

補助の制度につきましては、一旦申請をしていただいて、市のほうで交付決定をした後に申請者の方が全額支払いをしていただいて、それに対して補助をするという仕組みになっております。これにつきましては、新築助成の制度でも同様になっておりますので、利用する側からしますとお金を準備するという難しい点はあるのかと思いますけれども、現状の仕組みとしてはそういう

ような形になっております。

○3番（小笠原美保子）

普通はそうだと私も思っていたんですが、市民の方から言わせるとちょっと厳しい方も多いのかなと思うのでそこを検討していただけるとありがたいと思います。これを言いかけるときりがない話で、決まりは決まりというのは分かるんですけどもよろしくお願ひします。おうちのことは住んでいらっしゃるのであれば考えることもできるんですけども、私いつも空き家の対策を言っていますが、住んでないおうちに限って危険な状態だったり古くなっていたりするのですが、そこら辺は持ち主の方にはどのようにお伝えしていますか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□建築企画監（砂田健太郎）

空き家に対する取り組みになろうかと思ひますけれども、例年、固定資産税の納税通知書を税務課で発送する際に、空き家として把握しているところについては市として取り組んでいる空き家対策などについてご紹介するチラシなどを同封させていただくということでご案内をしています。

○3番（小笠原美保子）

先ほど古くなったおうちが多いところを重点地区にして個別訪問すると伺ひましたけれども、これから県とも連携をして大々的にちゃんとやっていかれるという話ですが、空き家に関しては、その件はどういうふうに対応されるのでしょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□建築企画監（砂田健太郎）

空き家のところにつきましては訪問時にポストへチラシを投入させていただくということなんですけれども、明らかに空き家で、地元の区のほうから特定空き家などについての相談があるところにつきましては、別途に空き家対策としての対応を取らせていただくというふうになっております。たまたま住んでいないだけで程度のよいものと、そうではない特定空き家にしなければいけないというようなものとかかなり差がありますので、対応についてはそれぞれ異なっております。

○3番（小笠原美保子）

おうちのことを言いかけるとたくさん出てくるのでこの辺にして、家具のほうへ。もう1つ気になるところを教えてくださいたいと思うんですけども、家具の固定は本当に大事だと思うんです。私、能登のほうへボランティアへ行ってきたんですが、後片付けの運び込まれるものを仕分けするところにいたのですが、割れ物がすごく多いんです。お茶碗とかガラスとか。ガラスなんかは本当に危ないですよ。分厚いガラスでもばりばりに割れているものが持ち込まれていました。もちろん冷蔵庫とかも危ないのにくっつけるのは大事なんですけども、ガラスや茶碗のように、ものすごく危ないけども手軽に取り組んでいただけたところ、できることからやっていくということが大事なのかなと思っています。その点は別に防災士や各関係者というふうにならなくても各家庭で気軽にできると思うんですけども、もうちょっとお勧めしていただけたらいいと思いますけ

ど、どうお考えでしょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□危機管理監（高見友康）

割れ物などを飛散しないようにという簡単な防止法というのはいろいろありますが、それらにつきましても各種防災講話のときに説明をしております。例えばガラスに窓フィルムを貼るですとか、茶だんすが開かないようにちょっとしたストッパーをかける、輪ゴム辺りでも十分ですが、そういうような説明をしております。

○3番（小笠原美保子）

各個人の意識の問題になってくると思います。一番心配しているのは、みんな気にはなっていてやらなければいけないというのは口をそろえておっしゃるんですけども、自分の家ではできないけど他人が入るのがすごく嫌だということもあるので、常日頃の信頼関係が大事ななと思います。その点、防災士だったら地元にもいらっしゃると思いますし、民生委員もそうですが、そういった方々にも意識していただいて常日頃からそういったご家庭へのコミュニケーションを取っていただいたりとか、「こういうことは危ないからやっ払いこうね、私お手伝いするよ。」という声かけがいるのかと思うんですが、その点はどうお考えでしょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□危機管理監（高見友康）

家具の重いもの、特にたんすとかそういうものは建築関係の専門の方でないといけない部分があります。実証実験で高齢世帯へ入って家具の固定をしたという事例では、防災士、建築の方、そのほかに議員ご指摘のとおり安心感をいただくためにケアマネージャー、児童委員、民生委員と大体1チーム5～6名でお宅にお邪魔するという事になっていきます。ただ、やはりそれぐらいのチームを組まないと大型家具の固定というのは非常に難しい話です。一方、高齢世帯の方は見知らぬ人が入ってくるのは嫌だということで非常に抵抗感をお持ちですので、まずはケアマネージャーにしっかりご説明いただいて、お立ち会いのもとでチームとして入るということを今実証実験の結果としてやっています。今後それを拡充していこうと考えています。

○3番（小笠原美保子）

きめ細やかに考えていただいてありがとうございます。ぜひそのように進めていただきたいと思います。災害が起きると、みんなこうやって意識が高まってばたばたといろいろなことを考えるんですけども、時間とともにすぐ忘れていきがちの部分ではあると思いますので、継続して市のほうでも取り組んでいただけるとありがたいと思っています。

では、次の質問に移らせていただきます。観光の推進・対策についてお尋ねいたします。コロナ禍の影響で低迷していた観光業界が、円安の影響もありインバウンド需要も含めて回復しています。この飛騨地方でも自然や日本らしさを求めた外国人旅行客が多く訪れ、今後も増加すると見込まれています。飛騨市は静かで人々の暮らしに近く、落ち着いて過ごしていただけるとと思いますし、実際にその点を気に入ったりピーターもいらっしゃるようです。飛騨市のよさを積極的にPRし、観光客のニーズに合わせ多くの方に訪れていただけますよう取り組みをお尋ねいたし

ます。

まず、SNSなどの観光客への情報発信の取り組みについてです。旅行に行くときは観光地の情報収集をしますが、どこも様々な手段で公開、PRされています。PRの方法はいろいろあると思いますが、実際に訪れたいと思えるような取り組みが重要です。特に海外から訪れる方にとっては情報が頼りですし、心に残るものがあると旅行も楽しみになるのではないのでしょうか。飛騨市の魅力をどのように発信されているのでしょうか。

2つ目は、インバウンド需要をどのように捉え、取り組んでいるのでしょうか。訪れてくれる人々へのニーズ、関わる業種など幅は広がりますが、方向性の確立により取り組みがスムーズになると思います。現状、今後の取り組みをお尋ねいたします。

3つ目は、民間業者の知恵に任せる取り組みはどのようにされていますか。観光客を誘致し、増加に伴い、地域が活性化することで経済効果や雇用の発展につながります。また、人口減少や衰退の問題を解決できるきっかけにもなりますように、地域を愛する方々との連携が大切です。民間業者や地元の方々との取り組みはどのようにされていますか。以上3点、お尋ねいたします。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

〔商工観光部長 畑上あづさ 登壇〕

□商工観光部長（畑上あづさ）

それでは、まず1点目の観光客への情報発信についてお答えいたします。

飛騨市の魅力の発信につきましては、現在、飛騨市及び飛騨市観光協会の公式観光サイトやSNSに加え、薬草ビレッジ構想などのプロジェクト、ひだあそびなどの体験交流事業、飛騨古川まつり会館などの観光施設からもそれぞれ積極的な情報発信を行っております。そのうち、飛騨市公式観光サイト及びSNSでは、英語圏に向けて英語での情報発信も行っております。その内容は、旅行者がほしい情報をダイレクトに届けられるよう、日々変化する旬の情報やイベント情報をはじめ周遊プランの提案、交流体験プログラムの紹介や予約受け付け、アクセス情報などとなっております。また、市内観光関連事業者からの情報発信につきましては、近年、多くの観光客がグーグルマップで情報収集を行うことから、機会を捉えて店舗情報や口コミなどをチェックしていただき、最新の情報を掲載していただくようご提案を行っているところです。こうした情報発信は、それぞれのサイトへのアクセス情報などから効果の有無などがある程度把握できることから、定期的にログ分析を行いながら、引き続き、効果・効率的な情報発信に努めてまいります。

次に、2点目のインバウンドの需要と今後の取り組みについてお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、コロナ禍で打撃を受けたインバウンドは、近年急激に回復しつつあると言われており、日本政府観光局によれば本年5月の訪日客数は300万人を超え、同じく5月の過去最高であった2019年の数値を20万人以上上回る数値となっております。飛騨市におきましては、令和5年の宿泊者数、8万2,678人のうち外国人は9,310人で、2019年の1万1,181人に戻りつつあり、古川町内の町家を改修したゲストハウスや老舗の旅館に宿泊し、ゆっくりとこの地を楽しんでいる外国人観光客の姿も多くなってきております。しかしながら、現在、訪日前の旅行者に対しましては、中部地区でも有数のインバウンド訪問地となっている高山市や白川村といった観

光地に隣接した飛騨市が単独で情報発信を行っても十分な効果が見込めず、費用対効果の面からも現実的ではないと考えられるため、現在、飛騨地域観光協議会、飛騨観光宣伝協議会など近隣自治体と連携した広域での情報発信を主体とした誘客を進めることとしております。こうした取り組みによりまして、まずは訪日中に飛騨地域にお越しいただく外国人観光客を増やした上で、高山市や白川村を訪れる外国人観光客に対し飛騨市の魅力を伝える情報発信を行うほか、市内飲食店や宿泊施設等の声を聞きながら、外国人観光客のニーズに合った飛騨市らしい体験をしていただける来訪地となるべく、様々な方向から取り組んでまいります。

次に、3点目の民間事業者等との連携についてお答えいたします。飛騨市は高山市などと違い、いわゆる観光都市ではありません。したがって、飛騨市観光協会の構成員には、観光分野以外の事業者の皆様も多く含まれておりまして、飛騨市の観光はまちづくりに近いものと考えております。こうした視点から、議員ご指摘のとおり地域の事業者の皆様との連携は必要不可欠であると考えておりまして、現在、市が様々な取り組みを行うに当たっては、観光協会をはじめ飲食店組合、旅館組合、街歩きガイドなどの総会等の機会を利用いたしまして様々な課題やご意見を伺っております。今後も引き続き現場主義を徹底し、市民の皆様や関連事業者の皆様方から現場で生の声をお伺いし、それを観光施策に反映できるよう努めてまいります。

〔商工観光部長 畑上あづさ 着席〕

○3番（小笠原美保子）

ざっとした質問によく答えていただいております。SNSの発信をされていてアクセス数から効果が目に見えて分かるということだったんですが、現状としてはどうですか。つながっているのか、そこだけ教えてください。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

インバウンドの方たちは国ごとによってどういったツールで情報収集をされるのかという傾向みたいなものがございまして、特に香港とか台湾の方たちはSNSで得た情報をもとに来訪地について検討されるという傾向があります。先ほど答弁申し上げたように、ログ分析ということで、どういった方たちがどういった言葉に反応してそのページをご覧になっておられるのかということのを定期的に分析いたしますし、その時期に合った情報をSNS届けられるように、例えば春先ですと3月から古川祭まではお祭りの情報がたくさんあがるようにしたり、祭りが終わった後はゴールデンウィークに向けて季節の花の情報とか、自然関係の情報が多く伝わるようにしたりということを重ねていきながら、適時にいろいろな情報をお伝えできるようにしております。

○3番（小笠原美保子）

皆さんそうだと思うんですけども、例えばどこかの土地へ訪れるときというのは見るもの、体験するものはもちろんなんですけども、その土地で作っているものであったり、どんなおいしいものがあるのかなというのがとても大切になってくると思います。古川の街の中を見渡してみますと、訪れてくださった方がお気軽に飛騨のものを食べていただくとか、楽しんでいただく場所が少ないように感じるのですが、今後、例えばお食事とか、休憩する場所に関してはどのようにお考えですか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

普段のところからご覧になられると、外国人の対応をしていらっしゃる店舗が少ないように感じておられるのは事実だと思うんですが、例えば、濃飛バスは高山市から古川町への路線を使いまして、市内の提携している飲食店へ夕食を取りに来ていただくツアーですとか、日中でしたらカフェとか喫茶店へ訪れて、食べ歩きでみだらし団子とかも組み合わせたセットの商品を販売していただいています。複数店対応していらっしゃる店舗もございます。実際、私たちが飲食店へ行ったときに話を聞きましたり、目にすることがあるんですけど、古川町のゲストハウスとか夕飯の伴わない宿泊施設に泊まれたお客様に対しては、その宿泊施設でお店のご紹介をされて、それに伴って食事をされている姿も拝見します。あと、国によってはハラールとかベジタリアンとか、食に対するいろいろな嗜好もあるんですけど、そういったことに対応していただける店舗も徐々に増えてきておりましてある程度の数が今存在しておりますので、今後もそういった店舗が増えていくとともに、実際受け入れてお困りになられることもいろいろお聞きしておりますので、そういったことにもフォローしていきながらお食事をしていただいたり滞在時間を楽しんでいただけるようにしていきたいと思っております。

○3番（小笠原美保子）

ツアー客が多いということですね。飛騨地域で広域で連携して飛騨市に立ち寄っていただくようにやっていくというのを伺いましたけども、立ち寄っていただいたその滞在時間をできるだけ延ばしていただけるのが大事なと思うんですけども、その点に関してはどういうふうにお考えなのかなと思います。例えば体験で何かしていただくとか、お食事もそうですが、今議会でもたまに出来ますけど有機野菜に取り組むようにしていくということであれば飛騨市の野菜や有機野菜を全面的に出していくとか、やり方はいろいろあると思うんですけども、その滞在時間を延ばすためにどういうふうに取り組んでいくと考えていらっしゃるか教えてください。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

今ほど議員は「ツアー客が多いんですね。」とおっしゃいましたが、ツアーといいましても飛騨市は小さい町ですので大勢の団体での旅行ではなくて、家族とか小グループでの旅行で来られる方のほうが多いんです。先ほど旅前の情報提供とか誘客のための方策として飛騨地域観光協議会とか、そういった広域の組織を利用して周知を図っていることを申し上げましたけれども、そういったことの取り組みの1つとして、小グループとか個人客の方たちは個々の旅行会社から直接宿の手配とか体験メニューの手配をされるいわゆるラウンドオペレーターという方たちを介して旅行の手配をされることが多いものですから、そういった方たちへアプローチをして、実際に体験でお越しいただいて、ご自身でも見ていただいたうえで外国人の方につなげていただくといった取り組みをしながら、具体的にいろいろなお提案をしていただけるための取り組みを進めております。

○3番（小笠原美保子）

外国人の方はとても多いですもんね。比率でいくと外国人の方のほうが多いのかなと。ただ、アジア系だと日本人なのがちよっとよく分からないのですが。

ちよっと私的な話になりますけど、私の地域にオーストラリアから移住してきた方がいらっしゃるんです。ご家族丸ごとでいらっしゃっているんですね。よっぽど日本好きかと思ってお話を伺ったんですけども、日本はもちろん好きなんですけど、いろいろな国へ行っていると。なぜ飛騨市を選んでくださったのかとお尋ねしたんですけども、自然が豊かで山が近いというのが一番の理由だったんですね。でも一番のきっかけは、2～3年前に高山市からずっと来て飛騨市にも寄られた。でもそのときは何も見れなかったとおっしゃるんです。とにかく大雪で前も見えないほど、車を運転するのもものすごく困難だったというぐらいのときにいらっしゃって、町の中はなにも見えていないとおっしゃるんです。その1回きり古川町に立ち寄っただけなのに飛騨市へ来て、古川町でおうちを買って住んでいらっしゃるんです。それを思ったときに、何が魅力になるか分からないなと思ったんです。その方たちにとっては山が近いことと大雪だったということがきっかけなんです。私たちは住んでいて雪が降るとすごい大雪だと、朝起きるのも嫌なぐらいになりますけども、雪のない地域からいらっしゃる方にとったら見たこともない景色がそこにあるわけです。それがすごくよくて住んでしまうという方もいると思ったときに、本当に1つ1つのよさというのは地元の方でも気がつかないところに多いのかなと気づかせていただきました。だから私の地区ばかりではなくて、市内にそういう方はいらっしゃるのではないかと思うんですが、例えばそういう方たちの声とか、きっかけとか、アドバイスとして1回お聞きになれるといいのかなと思うのですが、どう思われますか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

議員ご提案のとおり、そういった機会を設けることは大変参考になると思いますので、どんな方がこの地域にいらっしゃるのかを確認した上でやっていけたらと思っております。

○3番（小笠原美保子）

ぜひお勧めします。あと今のは外国人の方ばかりなんですけども、日本人の方は逆に車中泊が多いと伺っています。道の駅であるとか、私が伺ったのは駅裏の駐車場ですが、駅裏の駐車場の公衆トイレのお掃除に来ているシルバー人材センターのおばさんに伺ったのですが、毎年毎年、何度も何度も車で駅裏の駐車場にとまって古川町を観光される方がいらっしゃると。常連さんがかなりいらっしゃるみたいで、それも1人や2人ではなくて結構いるとおっしゃっているんです。それを思ったときに、もうちよっと日本人の方たちが夜であったり、朝であったり、お風呂とか、食べるものということが身近なところにもうちよっとあるといいなと思います。そういった車中泊の方々というのは把握されているのか教えてください。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

数値的に把握しているわけではありませんが、若宮駐車場にとまっている車のナンバー確認な

どにも職員が毎日回っていますので、そういったときの話であるとか、私たち自身も若宮駐車場に車をとめていますので、キャンピングカーで来られている方が昔と比べると増えてきているなというのは感覚的にも感じております。

○3番（小笠原美保子）

昔のことを考えると、ドラマで出たとか映画に取り上げられたというと爆発的に人が訪れてどこもかしこも潤うんですが、そこに頼ることばかりではなくて、ずっと続いているよき、文化であったり、自然であったりというところが一番の売りなのかなと思いますので、ぜひともよろしく願いいたします。では、最後の質問に移ります。

最後に、やさしいまちづくりのための休憩できる場所についてお考えをお尋ねいたします。夕方、町を歩くと散歩をしている方をお見かけします。これからは暑い季節になるため、体調に気をつけながら体力をつけるためにも続けていただきたいと思います。古川の町なかには比較的ベンチがあったり、屋根のついた休憩するスペースがあるため、高齢者の中には自分たちでお散歩コースをつくり、休憩できる場所で2～3か所休みながら体力づくりをしておられます。休憩できる場所が集いの場にもなり、交流することも楽しみになっているようです。しかし、町なかから少し離れると休憩する場所がなかなかありません。荒城川沿いを散歩する方々が「少し座る場所がほしい。」「薄暗くなったときに明かりがほしい。」との声もあります。また、そのような一休みの場所があることで、地域の方との交流の場にもなることも伺っています。お散歩するには年齢的にも一度にはたくさん歩けないためベンチがあるとよいとのこと。管理のことなど考えることもたくさんあると思いますが、高齢者の方がゆっくり楽しんで、認知症の予防や体力づくりができますように、市のお考えをお尋ねいたします。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

〔基盤整備部長 森英樹 登壇〕

□基盤整備部長（森英樹）

散歩コースへの休憩施設の設置についてお答えします。

町なかを散歩される市民の方が途中で休憩できる場所としては、道路沿線の公園やポケットパークなどが考えられます。道路上では車両や歩行者の通行を阻害することとなり、ベンチ等の工作物の設置は難しいのが現状ですが、瀬戸川沿いの道路など交通に支障がないと判断される場所においては、観光スポットや景観を楽しんでもらえるようベンチ等の設置も行っており、こうしたベンチ等は市が設置するものや地域住民が自ら行うもの、寄附によるものなど様々あります。議員お尋ねの休憩所の設置につきましては、市民や観光客がゆっくりくつろぎ、交流できる場所として大変有効であり、市有地では道路沿いのポケットパークや公園のほか、公共施設の敷地活用などが考えられますので、今後地域において設置要望がございましたら、場所の選定も含め関係部局と検討してまいります。

〔基盤整備部長 森英樹 着席〕

○3番（小笠原美保子）

場所は限られてくるとは重々分かっております。ただ、その場所ではないところにほしい方がすごく多いので困っているんですが、例えばなさそうな場所のところはどういうふうにお考えな

のかお尋ねされるといいのかなと。市民の方の声を直接聞かれると、それが一番いいのかなというのはいいます。私は毎日犬の散歩へ行くんですが、そのときに出会う方はほぼ決まっています。先ほど質問の中にも出しましたが、2～3か所休みながら行かれるという方なんですけど、頑張っているんですよ。例えばこのベンチで休んだ。1人だったら帰る。でも、今日は連れがいるから次の休憩場所まで行こう。その休憩場所まで行ったらまたお友達が待っている。じゃあ次のところへ行こうってどんどん歩く距離が延びるんです。そうやって思ったときに、本当にただ休むという場所ではなくて、得るものが大きいというか、その方たちにとっては本当にいろいろなことでありがたい場所になっているんだなというのを感じます。

今まつり広場でもベンチがすごく綺麗になったじゃないですか。あそこは前からですが、学校から帰ってきたお子さんたちがベンチの上で宿題をやっているんですよ。やっぱり気持ちがいいし、お友達も分かっているから集ってくるからだと思うんです。休憩する場所というだけではなくて集いの場所になっているわけです。観光客の方にとってもそうだと思います。ゆっくり休んで地元の方とお話ができる場所があるというのが何か所かある、飛騨市っていいね、飛騨市の人たちはいい人たちだねということにつながると思うんですが、どうお考えか聞かせてください。

◎議長（井端浩二）

12時を回りますが、このまま進めさせていただきます。答弁を求めます。

□基盤整備部長（森英樹）

それぞれ散歩されている方がここにベンチがほしい、ここで休憩所がほしいと様々な要望があると思います。地域の声としてここにほしいというような要望をしていただければ、その場所によって公園だとかポケットパークであれば基盤整備部が所管しておりますので対応することができますし、ほかの公共施設の敷地のこの一角にほしいということであれば施設管理者の部局で検討することができると思いますので、そういった地域の声を要望していただくというのが一番よろしいかと思えます。

○3番（小笠原美保子）

ご要望を待っていると道路とか川の話ばかりで休憩所の話は出てこないと思うのですが、そういうお話が来たらぜひ検討してください。よろしく申し上げます。

私たち大人がどれだけ飛騨市のことを愛して夢や希望を持って取り組んでいけるかというところが、これからを担ってくれる子供たちにもすごく影響するのではないかと思います。なので、そこら辺に向けていろいろ提案させていただきたいと思えますのでよろしくお願ひいたします。これで私の質問は終わります。ありがとうございました。

〔3番 小笠原美保子 着席〕